

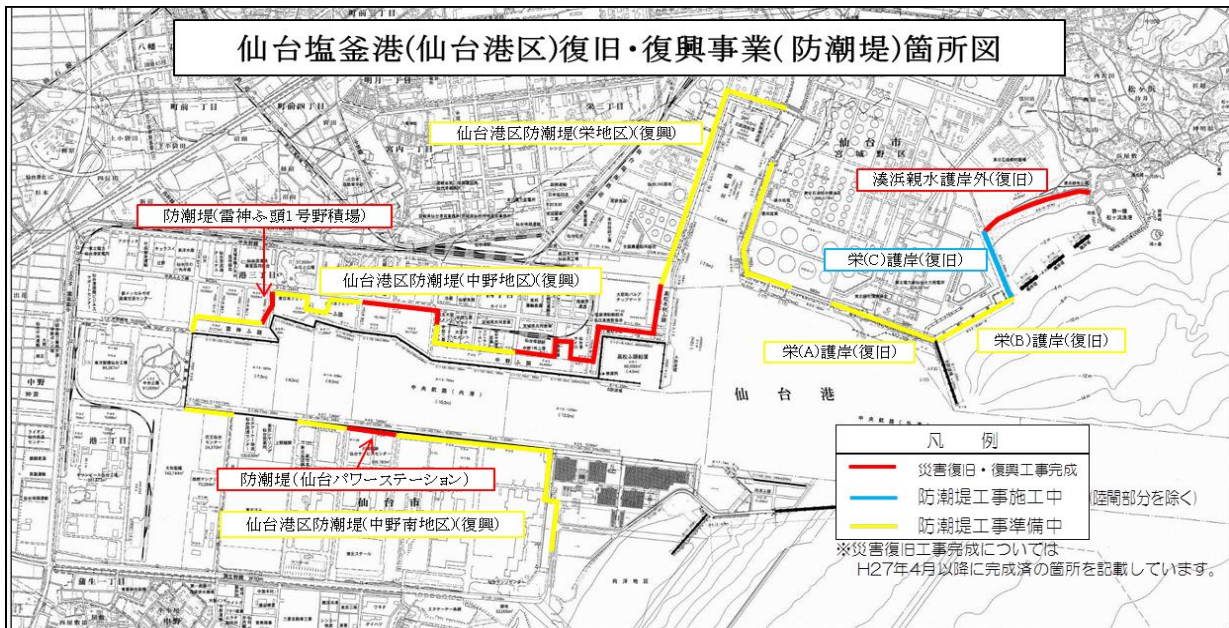


仙台塩釜港復興だより 第19号

— 港湾は人の心も結んでいます —

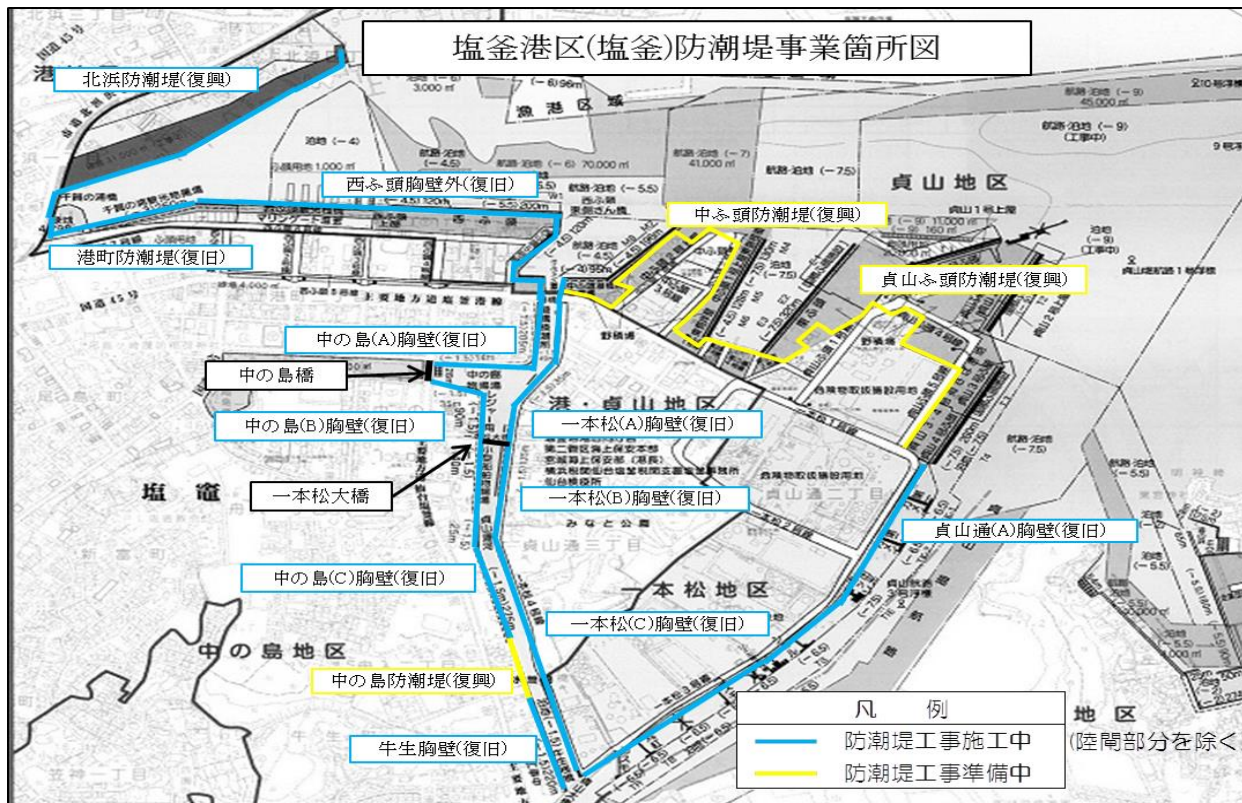
仙台港区で一部の工事が進んでいます!

平成27年11月末現在、仙台塩釜港(仙台港区)の復旧・復興事業として、防潮堤工事(中野地区、中野南地区、栄地区)を進めています。中野地区、中野南地区については一部施工を完了しています。災害復旧事業については、平成26年7月から着工した湊浜親水護岸外災害復旧工事が平成27年10月に完成しました。今後とも港湾利用者の方々との調整を図りながら、仙台港区の復旧・復興を進めてまいります。



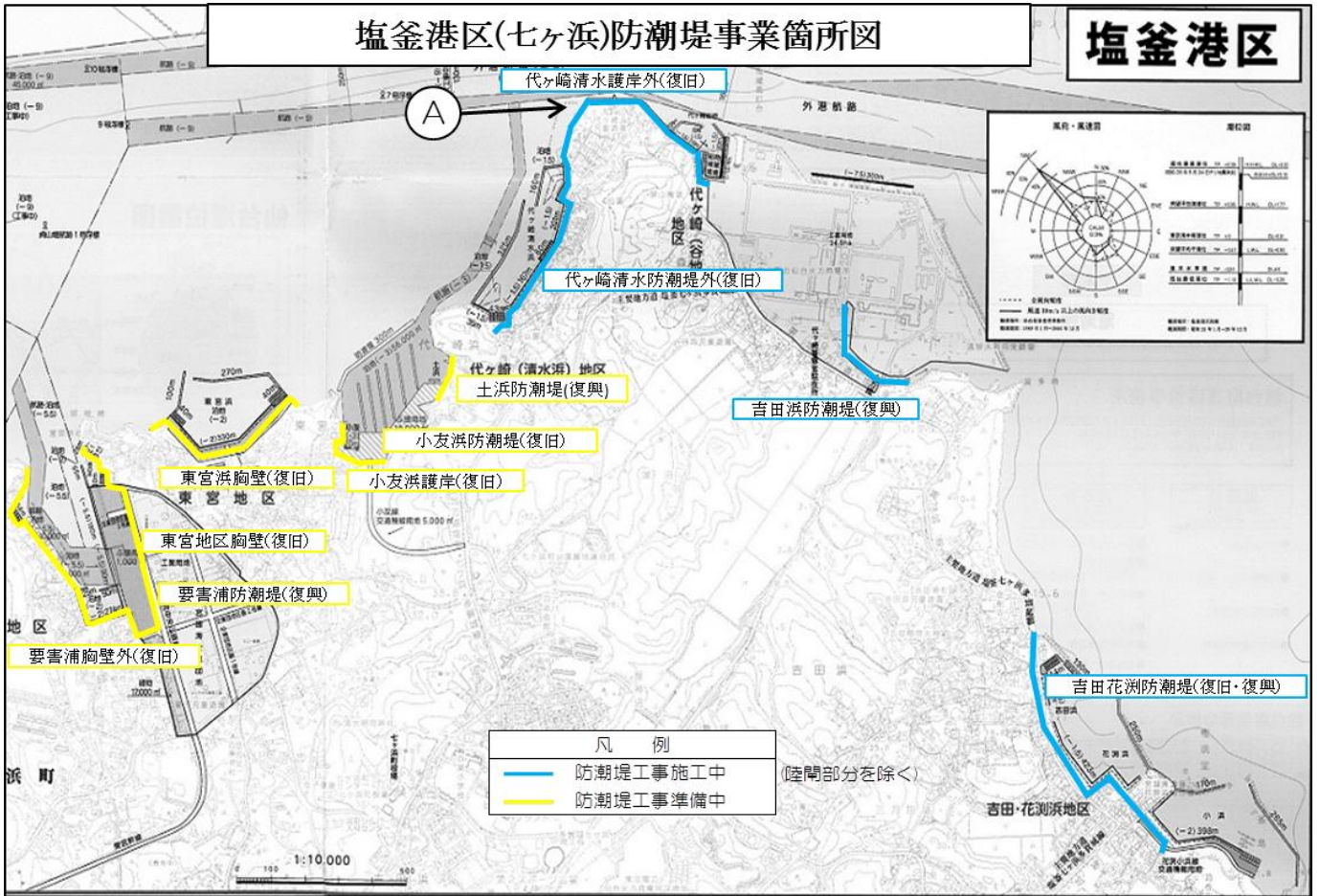
塩釜港区（塩釜）で工事が進んでいます！

平成27年11月末現在の塩釜港区(塩釜)における防潮堤工事施工箇所は以下のとおりです。貞山運河沿いや、港町地区等の防潮堤(胸壁)災害復旧工事について、施工を進めています。また、貞山運河沿いの防潮堤(胸壁) 災害復旧工事については、仮設橋台の設置、鋼管杭、矢板の打設を行っています。なお、新規防潮堤(復興事業)として、北浜防潮堤工事を進めています。



塩釜港区（七ヶ浜）で一部の工事が完了しました！

平成27年11月末現在の塩釜港区(七ヶ浜)での防潮堤工事施工箇所は以下のとおりです。災害復旧・復興事業として防潮堤工事(吉田浜地区, 代ヶ崎地区, 吉田花沢地区)が進められています。また, 港湾施設の災害復旧工事については, 平成26年10月から着工している小浜物揚場外災害復旧工事において, 小浜物揚場の一部供用を開始しました。

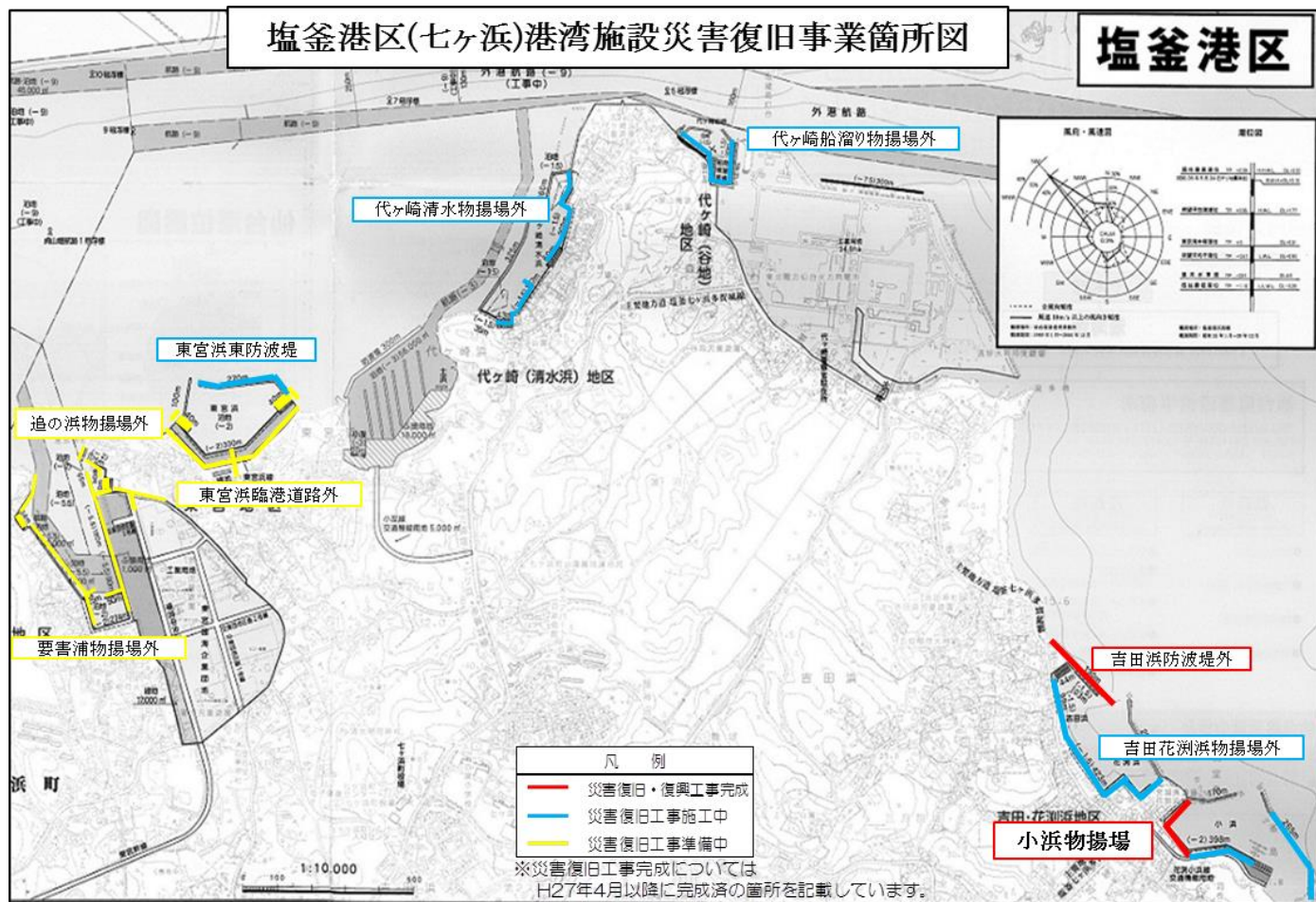


代ヶ崎清水護岸(A 地点から臨む)



着手前 (H26年9月)

鋼管杭打設状況 (H27年10月)



小浜物揚場



着手前 (H26年9月)



部分完成 (H27年10月)

客船「飛鳥Ⅱ」が仙台港区に寄港しました！

平成27年10月4日（日）、日本三大クルーズ船の1つとして知られる客船「飛鳥Ⅱ」が仙台港区に寄港しました。

当日は、乗客約900人を乗せ、仙台港区の中野1号岸壁に接岸しました。岸壁上では、宮城県観光PRキャラクター「むすび丸」によるお出迎えや伊達武将隊による出港セレモニーが行われたほか、宮城の名産品を販売するブースも設けられ、多くの乗客の方々に賑わいました。

また、仙台塩釜港到着後、乗客の皆さんは、仙台市内や日本三景松島などの観光地を訪れ、宮城の自然や歴史、味覚などをお楽しみいただくとともに、復興の様子を感じていただけたことと思います。



●来航した飛鳥Ⅱ



●出航セレモニー時の様子

仙台港で初めてLNG船が入港しました！

平成27年7月16日（木）、仙台港に初めてLNG（液化天然ガス）船が入港し、これを祝って記念式典が開催されました。

新仙台火力発電所に設置されているLNGを用いた発電所は、世界最高水準の発電効率を誇り、12月1日には2基のうち1基で営業運転が開始されました。東北電力は、来年7月全量運転開始を目指しており、今後のLNG船入港の増加が期待されます。

今年も港湾保安総合訓練が実施されました！

平成27年10月20日（火）、仙台港区のフェリー一ふ頭及びフェリー船「きたかみ」を会場にして、港湾保安総合訓練（テロ対策訓練）が昨年に引き続き今年も実施されました。港湾管理者である港湾事務所長、仙台入国管理局、横浜税関仙台塩釜税関支署、宮城海上保安部、宮城県警察本部などの各機関で構成される保安委員会が主体となって行われた訓練には、およそ130名が参加しました。

今回は、情報伝達訓練、不審船舶を追跡する洋上訓練、フェリー船における入国審査、X線検査で発見された爆発物を処理する訓練のほか、ヘリコプターから「きたかみ」に降下し、船内にいる不審者を制圧し検挙する訓練も行われました。降下訓練は今年から初めて実施され、例年以上に緊張感のある訓練となりました。

来年5月には仙台市で、伊勢志摩サミット関係閣僚会合「G7仙台財務大臣・中央銀行総裁会議」が開

催されます。今後も訓練を通じて関係機関との連携を強化し、港の保安対策に万全を期して参りますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



●洋上訓練の様子



●爆発物処理の様子

仙台塩釜港湾事務所で働く応援職員のみなさん

仙台塩釜港で働く応援職員の方々をご紹介します。今回は、7月から9月まで東京都から応援に来て下さった「菊池 昌彦さん」と、4月から1年間大分県から応援に来て下さっている「田邊 雅一さん」です。

-----「菊池 昌彦さん」(東京都応援職員)【派遣期間：平成27年7月～9月】-----

この度、東京都より派遣職員として仙台塩釜港湾事務所へ参りました菊池と申します。派遣期間は、7月から9月末までの3ヶ月間になります。

東京都では主に東京港の整備に関わる予算や関係機関との調整業務に携わっておりました。こちらでの主な業務内容は、塩釜港区の護岸や防潮堤等の災害復旧工事の設計積算業務、工事監督業務になります。

仕事を進めていくうちに、様々な弊害や課題を抱えていることがわかりました。労務資機材単価高騰による工事入札不調、地元住民や地権者等との調整難航による工事進捗の遅れ、工事発注内容と現場状況との大幅な乖離、業務量増大による職員数の不足等。そのような状況下で、各職員が連携・協力して仕事を進めていこうとする前向きな姿勢を感じました。

先日、事務所の方に県内の被災地を案内していただきました。津波で家や建物が全て流されてしまった地域やその一角に建てられた慰霊碑、仮設住宅や集団移転事業地区等を見学し、津波被害の大きさに強い衝撃を受けました。

私が応援職員としてできることは、東京都での経験を生かし、与えられた業務を的確に遂行し、港湾の復興事業に少しでも貢献することだと思っています。

短い期間ですが、任期満了の9月末まで精一杯頑張り、後任へ確実に引き継ぎたいと思います。

-----「田邊 雅一さん」(大分県応援職員)【派遣期間：平成27年4月～平成28年3月】-----

平成27年4月から1年間の予定で大分県から派遣されました田邊と申します。大分県に採用されて今年度で13年目ですが、そのうちの半分は港湾関係の業務を担当しておりました。東日本大震災発生当時は、港湾課で海岸整備や災害復旧などの防災関係の担当をしており、震災発生の一報を聞いたのは、直轄事務所との協議を終えて県庁に戻る途中の車の中でした。ラジオから聞こえてくる情報は現実味がなく、県庁に戻ってテレビの映像を見て驚愕したのも束の間、大分県にも津波警報が出ていたため、陸開閉鎖の確認作業に追われ、そのまま県庁で徹夜で待機するといった状況だったのを今でも覚えています。

こちらでは、港湾・海岸施設の災害復旧事業を主に担当しており、担当している工事が近々2件完成を迎えるなど、事務所管内の復旧・復興は着実に進んでいるなどと思う反面、管外に目を向けると、被災の爪痕が色濃く残っている箇所もあり、被災地全体の復旧・復興はまだまだなんだと実感しているところです。

これからも宮城県の復旧・復興の為、また、ここでの経験を南海トラフ地震対策を進める大分県で活かせるよう、頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。



●塩釜港区で現場対応している菊池さん



●松島浪打浜で現場対応している田邊さん

編集事務局

宮城県仙台塩釜港湾事務所 編集委員

〒983-0001

仙台市宮城野区港三丁目1-3アクセル5階

TEL 022-254-3132 FAX 022-254-3136

E-mail: sdsgkowns@pref.miyagi.jp